

たいし

第130号

発行／太子町議会 編集／議会広報委員会

議会だより

平成22年 3月定例会で決まったこと

p 1～p 4

6議員が 町政を問う (一般質問)

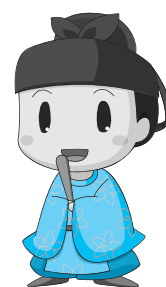
p 5～p 8

議会のうごき

p 8

第1回定例会は、3月2日に招集され、25日までの24日間にわたって開かれました。今定例会では、平成22年度の一般会計予算をはじめ、7特別会計及び水道事業会計の予算についての審議が行われました。その他、図書室設置条例の制定、議員提案で1万円引下げた議会政務調査費の交付に関する条例改正などがありました。

また、一般質問には、6人の議員が登壇し、活発な議論が交わされました。



平成22年度各会計予算

会 計 名	予 算 額	対前年度伸率 (%)
一 般 会 計	4 1 億 5 9 0 9 万 8 千 円	4.4
国 民 健 康 保 険 特 別 会 計	1 3 億 8 8 9 9 万 2 千 円	▲2.1
老 人 保 健 特 別 会 計	1 0 3 8 万 円	0.0
山 田 財 産 区 特 別 会 計	4 8 3 万 4 千 円	▲20.0
春 日 財 産 区 特 別 会 計	7 5 万 円	▲4.7
下 水 道 事 業 特 別 会 計	3 億 2 3 3 6 万 9 千 円	▲18.9
介 護 保 険 特 別 会 計	8 億 4 5 2 7 万 円	2.4
後 期 高 齢 者 医 療 特 別 会 計	1 億 3 4 8 8 万 4 千 円	0.6
水 道 事 業 会 計	2 億 8 0 4 7 万 5 千 円	▲1.0
合 計	7 1 億 4 8 0 5 万 2 千 円	1.2

※ 水道会計の予算規模は、収益的支出－減価償却費＋資本的支出

条例制定

●図書室設置条例

【内容】 22年4月1日より庁舎の一部に図書室が移転することに伴い新たに条例を制定する。

質 疑

問 新図書室の冊数、返却時間延長、返却場所。

答 3万2千冊を予定している。毎年1200冊を目途に増やしたい。夜間に返却できるポストを設けている。



4月1日に図書室がオープンしました

条例改正

●議会政務調査費の交付に関する条例中改正
●議会委員会条例中改正

政務調査費の引下げ

一人1ヶ月2万円→1万円に

【内容】各地の自治体で、政務調査費の不正使用などが指摘され問題になっていますが、太子町議会では、以前から領収書添付等で、政調費の透明度を高め、議員提案され可決しており、議会活動につ

役場機構改革に合わせ

委員会構成を変更

旧「総務常任委員会」

← 新「総務まちづくり常任委員会」

旧「建設常任委員会」

← 新「福祉文教常任委員会」

◎所管

・総務部

・まちづくり推進部

・出納室

・議会事務局

・委員長

・副委員長

・委員

◎所管

・健康福祉部

・教育委員会

・委員長

・副委員長

・委員

・委員長

・副委員長

・委員

・委員長

・副委員長

・委員

・委員長

・副委員長

・委員

・委員長

・副委員長

・委員

・委員長

・副委員長

・委員

・委員長

・副委員長

・委員

・委員長

・副委員長

・委員

・委員長

・副委員長

・委員

・委員長

・副委員長

・委員

・委員長

・副委員長

・委員

・委員長

・副委員長

・委員

・委員長

・副委員長

・委員

・委員長

・副委員長

・委員

・委員長

・副委員長

・委員

・委員長

・副委員長

・委員

・委員長

・副委員長

・委員

・委員長

・副委員長

・委員

・委員長

・副委員長

・委員

・委員長

・副委員長

・委員

・委員長

・副委員長

・委員

・委員長

・副委員長

・委員

・委員長

・副委員長

・委員

選任同意

●新副町長、小高氏の任命に同意

全会一致で、選任に同意しました。

小高 将根氏



諮 問

●人権擁護委員の候補者の推薦について意見を求める件

全会一致で適任とい

たしました。

意 見 書

次の意見書を全会一致で、可決しました。

『改正貸金業法の早期完全施行等を求める意見書』

平成22年度 第1回定例会
議決結果一覧表

件 名	結果
当初予算	賛成多数
・一般会計	賛成多数
・国民健康保険特別会計	賛成多数
・老人保健特別会計	賛成多数
・山田財産区特別会計	賛成多数
・春日財産区特別会計	賛成多数
・下水道事業特別会計	賛成多数
・介護保険特別会計	賛成多数
・後期高齢者医療特別会計	賛成多数
・水道事業会計	賛成多数
補正予算	賛成多数
・一般会計(第5号)	賛成多数
・国民健康保険特別会計(第2号)	賛成多数
・下水道事業特別会計(第1号)	賛成多数
・後期高齢者医療特別会計(第1号)	賛成多数
・水道事業会計(第2号)	賛成多数
条例制定	賛成多数
・図書室設置条例制定	賛成多数
条例改正	賛成多数
・議会委員会条例中改正	賛成多数
・議会政務調査費の交付に関する条例中改正	賛成多数
・廃棄物の減量化及び適正処理等に関する条例中改正	賛成多数
・国民健康保険条例中改正	賛成多数
その他	賛成多数
・河南町、太子町及び千早赤阪村介護認定審査会共同設置規約の変更に関する協議について	賛成多数
・河南町、太子町及び千早赤阪村障害者給付認定審査会共同設置規約の変更に関する協議について	賛成多数
・副町長の選任について同意を求める件	賛成多数
・改正貸金業法の早期完全施行等を求める意見書	賛成多数
・土地開発公社事業計画・予算・資金計画報告	賛成多数
・人権擁護委員の候補者の推薦について意見を求める件	賛成多数

4805万2千円を可決

主な計画事業



◎総合スポーツ公園
グラウンド照明改修
(600万円)



◎鳥獣被害防止
総合対策の拡充
(400万円)

◎教育施設老朽化
対策事業
(310万4千円)

◎福祉センター
省エネ推進事業
(5737万円)

一般会計

【特徴】引きつづき行財政改革を推進するとともに、必要性があり、緊急性の高い事業・経費に重点を置いた予算編成。

質疑

問 肺炎球菌ワクチン接種費用の助成が、周知されていないのでは。

答 21年度では、町内2医療機関で。22年度より全ての4医療機関で実施できる。今後、積極的にPRしていく。

問 中山間地域直接支払いは、荒廃地防止が目的。今後、鳥獣被害対策に方向転換するとの事だが、初期の目的は達成できたのか。

答 当初の目的は果たしたと考える。しかし、鳥獣被害が深刻化している今、農地を守るた

めの鳥獣被害防止対策や遊休農地を利用した仕組み作りに繋がってきたい。

問 子ども手当では国費で賄うのが基本だが、町の負担は増えるのか。

答 所得・年齢制限の拡大の影響は、国が全額負担。児童手当にかかる町負担増については、特例交付金により措置される。

問 電波遮へい対策事業費等補助金で、町内で申請はあるのか。

答 いわき台が申請済み、平和町が申請の準備中である。

電波遮へい対策事業とは…

辺地共聴施設（共同アンテナ）の地上デジタル放送への国の整備補助。



問 常備消防委託料が減額予算になっているが、人員等を減らしているのか。

答 職員の若返りや超過勤務の精査など行い、人件費が減額。人員を削減した訳ではない。

問 特色ある学校づくり補助金は、どのようなものか。

答 各学校で取組んでいる地域連携や芸能鑑賞など色々な内容を、予算の費目を限定することなく、事業として実施する。

討論

【反対】教育整備事業推進、学校施設耐震化、図書室・放課後児童会拡充など住民要望に沿った施策は評価できるが、毎年多額の黒字を生み出しながら行革に取り組む予算編成となっている。住民の暮らしを守る事が最優先

されるべき。雇用対策や中小企業対策など安心して暮らせる町政が求められている。近隣では取り組まれている循環バスや中学校給食の調査・研究にも至っていない。住民の願いが叶うまちづくりの予算を求め、反対。

【賛成】地方交付税の増額が見込まれるが、各種交付金や町税の減少など、歳入の状況は厳しい。限られた財源の中で、経済的な経費を最小限に精査した上で、重要性、緊急性が高い、少子・高齢化への対策や教育環境の充実、まちの活性化や、安心安全のまちづくりのための施策等に予算配分がなされている。また、地域経済等に配慮し、21年度補正予算とあわせて、編成されているのは、評価できる。安定した行財政運営に努め、住民が太子の魅力を共有し、安全・安心のまちづくりを推進することを要請する。

平成22年度 太子町予算

総額 71億

国民健康保険

【内容】歳出において、介護納付金が増加するものの、保険給付費においては、若干の減額や老人保健事業の廃止に伴う拠出金及び後期高齢者支援金などの減少により、対前年度減額となった。

また、賦課限度額を、中間所得層の負担軽減のため、44万円から、47万円に改正した。

質疑

問 財政調整基金がなくなれば、保険料等に影響するのか。

答 23年度予算で基金を繰入れると、0になる状況。経済状況の影響で所得が年々落ちていく中、医療費を下げること、収納率を上げることなど、総合的にやっていきたい。

討論

【反対】最高限度額の引上げで、料率が下がり負担増となる世帯は、2026世帯中、70世帯で、多くの国保世帯の保険料がわずかだが、引き下がる。それでも所得300万円、40歳以上の夫婦と子ども2人世帯で、37万9740円の保険料負担。国負担を増やすこと、町は一般会計からの繰り入れを増やすことで、住民の命と健康を守ることを求め反対する。

【賛成】被保険者の負担に配慮し、一般会計繰入れを増額すると共に、国・府負担金などの財源を適切に措置し、基金からの繰入金金を有効活用した予算になっている。保険証のカード化を図る事や、リストラなどで収入が無くなった方の保険料軽減分を見込むなど評価できる。

今後とも、健全会計に努めるよう要望する。

後期高齢者

【内容】保険料及び被保険者の移動に要する事務及び電算機器費用等により予算編成を行っている。

質疑

問 大阪府の一人当たり保険料は、全国的に見て高いのか。

答 21年度の保険料の状況で、大阪府は7万6833円、全国平均では、6万2千円。

討論

【反対】75歳という年齢で高齢者を区切つて差別する世界で類を見ない制度。高齢者の人口増・給付費増に際して保険料が2年毎に大幅値上される。制度廃止を求め反対する。

【賛成】後期高齢者医療制度の新制度が検討されると聞いており、

これらの動向を十分に注視しながら制度の円滑な運営を求める。

補正予算

●一般会計

【内容】国の地域活性化・きめ細かな臨時交付金対策事業の増額、基金積立金の増額、人件費精査による増額、退職消防団員報償費の増額等で、1億4015万4千円の増額補正となっている。

【主な事業】

- ・保健センター屋根改修、空調設備更新
- ・山田、太子集会所屋根改修等
- ・中学校校舎耐震改修、プール改修
- ・放課後児童会教室整備
- ・子ども手当円滑事業
- ・道路維持管理事業
- ・町道等防護柵改修
- ・山本邸倉庫改修
- ・総合スポーツ公園高圧受変電設備更新

平成21年度
各会計補正予算状況

会 計 名	補 正 額	補正後の総額
一 般 会 計	1億4015万4千円	45億3163万3千円
国民健康保険特別会計	0円	14億4407万4千円
下水道事業特別会計	▲253万8千円	3億9596万5千円
後期高齢者医療特別会計	0円	1億3403万9千円
水道事業会計	収益的収入	▲504万4千円
	収益的支出	▲97万円
	資本的収入	▲73万円
	資本的支出	▲293万5千円
		7685万3千円

3月定例会の一般質問

町政を問う

6人の議員が登壇

介護保険の住宅改修費について P 5
浅野町政のこれまでと今後について P 5
職員の意識改革について P 5
耕作放棄について P 6
歳入の確保と納税者の利便性について P 6
町内の地域・地区のあり方について P 7

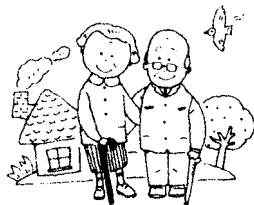
土地利用について P 7
誰もが自由に移動できる交通手段を P 7
交通安全対策を P 8
地デジ移行で難視聴を出さないために P 8

介護保険の住宅改修費について

山田 強 議員

問 小規模の住宅改修工事費は、対象限度額は1割の自己負担を含め20万円であり、実質上限18万円の補助となるが、現状では、利用者が一時的に全額を用意せねばならない。全額を用意せずに済む仕組みに変更を。

答 介護保険制度の発足時より、本町と河南町、千早赤阪村で認定審査会を共同設置。住宅改修費の給付の変更も2町1村で、前向きに検討する。



Q 浅野町政のこれまでと今後について

問 町長の2年間の検証を、住民に報告を。

ついで

答 人件費の抑制。人事評価制度、企業誘致制度、窓口対面方式、町長直通便制度等の導入。特産品の開発拠点として自然休養村管理センターの貸し出し。乳幼児医療制度では、入院時対象年齢の拡充。災害時要援護者避難支援計画の策定。防災備蓄品の整備。中学校の耐震補強工事への着手。図書室のリニューアルオープン。竹内街道歴史資料館友の会、太子学校応援団等を設立。振り返ると改革項目の約7割以上を着手した。この22年度を改革の成果を成熟させ、生み続けていく年にする決意。

要望 本町の先行きはデフレ不況で厳しいものになると予測され、住民の生活不安は慢性化している。太子町住民の生活を守る為、これまで以上の奮闘を。

Q 職員の意識改革について

問 町長の職員への意識改革とは、「職員が住民の為に必要なことは何か、もっとよいサービスが生み出せないか」ということを常に考え、目の前の制度や仕組み、仕事の進め方を変えていくことである」と言われる。意識改革の成果は。

答 人事評価制度の導入を検討し、課長代理以上の管理職職員を対象に実施。

人材育成にも積極的に取り組む。新年度も若手職員と意見交換を考えている。

要望 職員が自発的に役場人間になる改革も必要。提案制度の確立、職員の自由闊達な意見を本町の発展に活用される事を望む。

耕作放棄について

山本朝雄 議員

問 福島県平田村と矢祭町に研修に行った。平田村は中山間地域の特性を生かし、葉たばこ、水稲、野菜に畜産を加えた複合型農業を行っている。また、阿武隈山系の豊富な伏流水を使った地酒もあり、平田村の自然は多くの恩恵をもたらしている。平田村は自生している機能性植物、滋養強壮の自然薯の栽培を行い、村の特産品として道の駅で販売している。初年度は栽培面積40アールに作付けされ、本数は8千本、生産額1千万円を目標としている。

現在、太子町でも耕作放棄される田畑が目につくようになってきた。農家の後継者不足と高齢化とが相まって、町の産業である農業を取り巻く環境は一段と厳しさを増している。作物をより早く成長させ消費者に届けようと思えば加温施設等に費用がかかり、耕作放棄されることもある。町は加温室度や太陽光発電、太陽光温水器、重油加湿器、又ビニールハウス等に補助金を出し、農家の収入増への協力を。耕作放棄地の減少にもつながり、町税の増加、雇用対策にも大きく寄与することになる。

また、太子町に自生している自然薯を高齢者や就職できない人たちと共に遊休農地を生かして栽培し、町の特産品として販売を。これは、太子町の協力があれば実現できることだし、町の更なる発展にもつながることだと思うが、いかがお考えか。

答 町の取り組みとして、府あるいはJAと共催し、ブドウ塾を開催している。約270

名が卒業し、卒業生のうち63名が農家の援農隊として12農家の支援に回っている。また、農業委員会では遊休農地解消の取り組みも実施をしている。2月末には本町でも遊休農地対策協議会を設置した。新年度以降の国の支援制度の耕作放棄地再生利用緊急対策事業を活用し、耕作放棄地の再生と共に、再生後の活用の仕組みづくりをめざす。

また、特産品による地域の活性化への取り組みだが、大変先進的な取り組みだと認識している。自発的な取り組みが本町でも増えればと考える。町の方が奨励し、更には特産品化ということになると、その土地の地域文化と一緒にものが作られる。更には販売する拠点とのリンク等、課題整理が必要かと考える。

歳入の確保と納税者の利便性について

森田忠彦 議員

問 太子町の平成22年度の一般会計当初予算の町税は、平成21年度の16億2千70万円に比べると2・4%、3950万円減少する予算となった。町税は、太子町にとって最大の自主財源であり、町税の確保は最も重要な課題。税を徴収するという点からは、税の滞納を減少させる為、滞納整理等を進めるべきだと思うが、実際に苦しい人には分納とか、いろいろな方法で相談に乗ってあげるべきであると思う。本町の場合は、税金を役場や郵便局、農協といった金融機関で納めている人が大半だが、滞納を少なくする為にはできるだけ納税者が納めやすくする方法を考えなければならぬと思う。

先日、住民の方から「仕事の都合で金融

機関が開いている時間には行けないので税金が払えなくて困った」という話をお聞きした。一方、近隣の市では、税金をコンビニで土曜、日曜、24時間いつでも納付出来ると聞いている。

要望 答弁で費用対効果を考えると云ったが、町税をコンビニに納付出来ることにすれば収納率のアップになり、早期歳入の確保にもつながるとともに、住民サービスという意味で大いに費用対効果もあると思う。

答 現在、府内24市町がコンビニ納付を実施しており、近隣では、富田林市、大阪狭山市、河内長野市、羽曳野市等がすでに導入している。また、藤井寺市は22年度に導入予定となっている。

コンビニ納付は納税者の利便が図られる半面、既存の電算システムの変更、納付書変更等の経費が検討の課題になるが、ほかの市町村の事例等を参考にし

コンビニ納付の早期実現を要望する。

窓口・金融機関だけでは、納められない方も…



町内の地域・地区の あり方について

田中祐一 議員

問 自治会・町会が果たしてきた役割は非常に大きく、お互い顔の分かる、心が通う地域が形成されてきた。しかし、太子町で町会に入会しない世帯が増えてきている。太子町として、地域コミュニティの役割と重要性をアピールして、入会率を向上させる施策を展開すべきでは。また、町は自治振興補助金として年間総額一千万円を各町会に交付しているが、町会そのもののつながりを強めるような施策を行えないか。

答 現在47の町会・自治会があり、様々な活動を展開しているが、高齢化、核家族化、価値観の多様化等により、地域の連帯感が希薄化しつつあり、平成21年4月1日現在で加入率は61・6%と年々減少している。町会の活動

が明るく住みよいまちづくりにつながっていることを踏まえ、広報誌や町ホームページを活用して加入促進を図りたい。コミュニティの強化については、災害時の要援護者支援等、町会・自治会の果たす役割が大きいことから、今後その施策について検討したい。

問 大字地区を基礎として予算を伴った地域自治を町として行う考えがあるのか。

答 住民の方がまちづくりの主役として、それぞれが個性と能力を発揮し自主的に、そして又自立的にまちづくりを行うことは、地域自治という観点から極めて重要なことであり、本町でもこのような制度を導入できるかどうか調査・研究を進めて参りたい。

**Q土地利用について
(山の荒廃対策)**

問 町内の山林の大部分が放置されたままになっている。山の荒廃は我々の生活に大きな影響を与える。町として今後山林に対してどのように取り組むのか。

答 殆どが金剛生駒紀泉国定公園内にあり町の森林面積は515ヘクタールで町の総面積の36%を占める。人工林の殆どが保安管理が行き届いていない。事態の改善にむけ、大阪府が国の定額支援を受けて行う森林整備加速化林業再生事業(間伐の実施)を本年度から3カ年計画で実施する。また山地美化キャンペーンやおおさか山の日イベント等を通じて意識啓発にも更に取り組んでいきたい。

誰もが自由に移動できる 交通手段を

西田いく子 議員

問 バリアフリー法の、誰もが自由・安全に移動・利用することは基本的権利という考え方に立ち、自治体は、交通・移動の権利を保障し得る施策を計画的に実施することになった。国交省では「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」を受け、地域公共交通総合連携計画を策定する為に必要な調査や、計画に基づき公共交通サービスに関する情報提供等、利用促進活動及び利便性向上の情報提供システムの開発を行うための経費の一部を補助する事業を進めている。21年度、近畿運輸局管内で、48件が認定され、大阪府で河内長野市を含む4市が認定された。太子町でもこの事業への取り組みを。

答 河内長野市ではこの事業を活用し、既存

のバスの路線の見直しや、公共交通空白地域の解消等を行う為、試行的な運行が実施されているが、本町のような小規模な交通体系では活用は困難。

問 国に、どの自治体でも取り組むことが出来るよう要望を。

答 全国の自治体では、効率がよく、高齢者が利用しやすいことから、小回りのきく、主にワゴン車を使用することが主流となっている。今すぐ国の事業が活用できなくても、①地域の状況、住民ニーズを把握する調査研究を。②住民が利用する金剛バスと話し合いの場を。③福祉センター行きバスの活用拡大を。

答 国民の移動の権利、保障は、国が負うべきだと考える。
①交通基本法検討会

の動向や近隣市の取り組みについて周知したいと思う。②金剛バスとは話し合っている。③福祉の循環バス活用は、現在のところ考えていない。

要望 国の支援を待つ間にも太子町の高齢化は進み、住民の方が移動するのに困難を極めるといふ状況は変わらない。町民の声をしっかりと受けとめ、町内の状況を把握すべき。金剛バスに対して、バス停に日よけが欲しいという要望もあり、金剛バスとの協議の場をこれからも続けて頂くことを要望する。

住民の知恵と力を借りて太子町に合った交通手段の確保を。住み続けたいまちづくりの為に、将来を見据えた交通手段の確保、調査研究から始めることを強く要望する。

交通安全対策を

阪口 寛 議員

問 国道166号線は、徐々に歩道整備されているが、大型車両の通過が格段に増え、栄町から香芝太子線にかけては、付近住民は恐怖さえ感じる状態になっている。以前、歩道の設置は難しいが、道路側溝のふたかけは、住民、議会からも要望があり、府に早期実施するよう要望することだったが、進行状況は。また、交通安全についての注意啓発等はどのようにしているか。

答 府は現地調査を行い、一昨年末には松の木保育園前及び山本自動車前のカーブ区間の減速表示を行い、ふたかけ未整備区間の整備についても今年度設計を行い、22年度は、可能な所からふたかけ工事を実施する。

春の交通安全運動の

重点項目は、子どもと高齢者の交通事故防止、シートベルト着用など。本町の取り組みは、キャンペーン実施、通園・通学の子どもに対し街頭指導を行い、町広報誌や防災無線を活用し、啓発に努める。

要望 側溝ふたかけの促進、グリーン舗装等、出来るだけ確実な歩行空間の確保を要望する。

Q地デジ移行で難視聴を出さないために

問 来年7月にアナログ放送が停波され、地デジ放送に切り替えられるが、難視聴地区が500万世帯になる。難視聴地区では、対応テレビを購入して、対応アンテナを立ててもデジタル放送が映らないことが判明している。本町でも、映らない家の対策は。

答 本町も住民から地デジに関する相談や苦情が日々多くなっている。

映らない地域は、本町来国及び放送事業者の責務において解消すべき問題であり、受け手側、特に高齢者や障害者及び経済弱者に負担を押しつけるのは到底容認することは出来ない。本町においても、住民の方々にに対し適切な地デジ情報を広報誌並びに町のホームページを活用し、周知すると共に、今後も引き続き国に強く要望する。

要望 町としても専門職員を配置して、相談窓口を作って対応して頂きたい。また、問題解決までアナログ停波を延期する等、国の責任を果たすよう働きかけを強められたい。

議会のうごき



涼しげな小屋に風情が

去る5月6日、奈良県で開催されております『平城遷都1300年祭』を視察いたしました。

「ゆるキャラ」「キモかわい」と全国的に有名になったせんとくんをあしらった案内を配し、広大な1300年前の平城京を再現した地で、歴史遺産を

議会視察報告

町のまちづくりに活かすには…

平城遷都1300年祭を研修



朱雀門前にて

活用して行なわれる地域おこしの観光を太子町でも活かせないかという視点で、歩きました。よしず張りの小屋は、涼しげで風情があり、聖徳市など、太子町でも参考にできないか、材質など熱心に見学しました。

奈良県が乗り出して行なわれる事業が、そのまま太子町でできるわけではありませんが、来るべき2022年、「聖徳太子1400年祭」を行なうためにも、今から様々な自治体の事業を見学・研修し、まちおこし、観光に役立てていきたいと思っています。

議員表彰

10年勤続議員表彰に

建石 良明氏

西田いく子氏

平成22年3月3日、第58回大阪府町村議定会定期総会において、多年にわたり町議会議員として自治振興の発展貢献に対し、表彰されました。



議長から手渡されました

